

「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく 木津川上流部の取組方針における

令和5年度の取組

■各取組の進捗状況

令和5年度末時点

取組項目	進捗率
1. ハード対策の主な取組	
①洪水を河川内で安全に流す対策に関する事項	82%
②危機管理型ハード対策に関する事項	100%
③内水対策に関する事項	67%
④避難行動、水防活動に資する基盤等の整備	14%
⑤流出抑制に関する事項（洪水、土砂、流木）	58%
2. ソフト対策の主な取組（①逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組）	
①情報伝達、避難計画等に関する事項	68%
②平時からの住民への周知・教育・訓練に関する事項	62%
③円滑かつ迅速な避難に資する施設等の整備に関する事項	94%
3. ソフト対策の主な取組（②氾濫による被害の軽減、避難時間の確保のための水防活動の取組）	
①水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項	76%
4. ソフト対策の主な取組（③一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための取組）	
①排水活動及び施設運用の強化に関する事項	69%
②土地利用に関する事項	17%
5. 土砂災害に対するハード対策に関する取組	
①防災施設の整備等	80%
6. 土砂災害に対するソフト対策に関する取組	
①土砂災害防止法に基づく事項	93%
②土砂災害に対する情報伝達、避難計画等に関する事項	77%
③土砂による被害の軽減、避難時間の確保のための防災活動の取組に関する事項	71%
④一刻も早い生活再建及び社会経済活動の回復を可能とするための復旧活動の取組に関する事項	50%
7. 複合災害に対するソフト対策：逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のための取組 など	
①複合災害に対する情報伝達、避難計画等に関する事項	65%

※なお、表中の進捗率は、各機関からのアンケート回答をもとに「実施予定」と「実施済・実施中」の和（機関の数）を分母、「実施済・実施中」を分子とした割合。

目次

笠置町	2	国土交通省 近畿地方整備局 木津川上流河川事務所	
山添村	2		13
御杖村	3	国土交通省 近畿地方整備局 紀伊山系砂防事務所	
三重県	3		18
奈良県	8		
水資源機構関西支社 木津川ダム総合管理所	9		
津地方气象台	12		
奈良地方气象台	12		

○『町内自主防災組織と笠置町の 共催による防災訓練の実施

課題対応: G15-2 (R9-11)



【笠置町】

【訓練内容】

- ・初期消火訓練
- ・情報伝達訓練
- ・給食給水訓練
- ・救出救助訓練
- ・防災知識醸成訓練



初期消火訓練



給食給水訓練



救出救助訓練



知識醸成訓練

実施主体
担当部署

総務財政課

R5年度
進捗状況:★

取組概要

笠置町で初発足した自主防災組織との共催による防災訓練を実施することで、地域防災力の向上と各防災機関との連携強化を図ることを目的に実施したもの。

取組内容の工夫点・課題・留意点

工夫点: 消防や郵便局にも訓練に参加要請
日本防災士会京都府支部長からの
激励メッセージ披露。

課題: 高齢化に伴う防災活動等への限界。
留意点: 組織発足8月、防災訓練11月。

取組による効果

自主防災組織が町内で皆無だったため、本組織が発足したことにより地域防災力の向上が期待される。本組織が他の地区においてモデルとなることで、追隨しての自主防災発足という機運が醸成される。

活用可能な制度等

特になし。

○東山地区防災訓練の実施

課題対応: G7-10 (R9-26)

【山添村】

○東山地区防災訓練実施

日時: 令和5年11月4日(土)7:30~

場所: 山添村大字桐山 農村広場、東山公民館

参加者: 東山地区区民53名

訓練協力団体: 東山地区各区長、山添村消防署、山添村消防団、
山添村赤十字奉仕団、山添村

訓練内容

- ・東山各集落から避難場所への避難訓練(各区長、消防団)
- ・救命講習(AED講習)(消防署)
- ・住宅火災警報器、感電ブレーカー展示(消防署)
- ・炊き出し試食体験(赤十字奉仕団)
- ・煙中訓練(消防署)
- ・消火器取扱訓練(消防署)
- ・消防車両の展示(消防署)

実施主体
担当部署

山添村総務課

R5年度
進捗状況:★

取組概要

左記のとおり。

取組内容の工夫点・課題・留意点

多くの方に参加いただけるよう周知の方法が課題。

取組による効果

参加者の防災に対する意識向上が図れた。

活用可能な制度等

特になし。

○住民参加型の避難訓練の実施

課題対応: G7-10 (R9-26)

【御杖村】



訓練の様子

実施主体
担当部署

御杖村 総務課

R5年度
進捗状況:○

取組概要

地震による建物の倒壊、土砂災害、水害を想定し、最寄りの指定避難所まで避難を行いました。また、指定避難所で避難者が使用する間仕切りテント、段ボールベッドの組み立て訓練を実施しました。

取組内容の工夫点・課題・留意点

地域役員の方々を中心に避難所で使用する備品の組み立て訓練を実施し、避難者の受け入れにかかる協力体制の構築を図った。

取組による効果

住民一人一人の防災意識の向上。

活用可能な制度等

特になし。

ハード対策

河川整備計画に基づく河川改修の実施

①築堤・護岸工 ②河道掘削 ③河道拡幅

課題対応: G1-1 (R1-1)

○木津川(指定区間)大規模特定河川事業

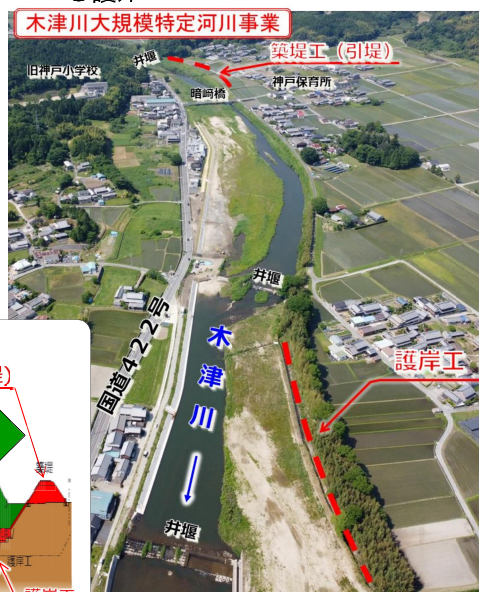
【三重県】

【主な整備内容】

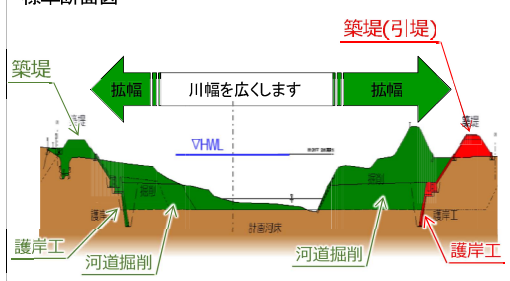


令和5年度の実施内容

- 築堤工(引堤)
- 護岸工



標準断面図

実施主体
担当部署三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所R5年度
進捗状況:○

取組概要

木津川(指定区間)沿川における浸水被害の軽減を図るため、河道拡幅、河道掘削等により流下能力の向上を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

井堰等、既存の横断構造物の改築が必要となる。

取組による効果

上野遊水地事業及び川上ダム整備事業と上下流一体となった整備により、流域全体の治水安全度の向上と、流域住民の安全安心を確保する。

活用可能な制度等

特になし。

河道内樹木の伐採や堆積土砂の除去等(多数の家屋や重要施設等の浸水が想定される区間の保全対策)

河道の維持掘削、浚渫

課題対応: G1-2 (R1-2)

○河道の堆積土砂撤去事業

【三重県】

【主な整備内容】

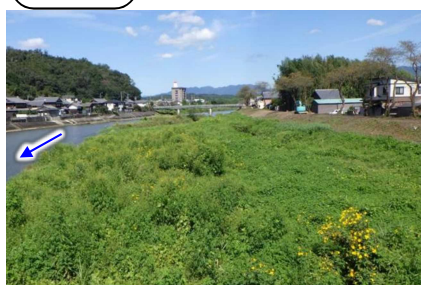
令和5年度の実施内容

○堆積土砂撤去

一級河川木津川他21川
(赤川、日野川、滝川、山の田川、後黒見川、
河合川、丸柱川、鞆田川、野田川、比自岐川、
御代川、矢田川、北川、柘植川、払子川、
矢谷川、大谷川、宮谷川、平野川、
松林坊川、小波田川)



施工前



施工後



一級河川柘植川

实施主体 担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

河道内に経年的に堆積した土砂により、低下している流下能力を回復するため、河道の堆積土砂撤去を実施する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

11

取組による効果

河道の堆積土砂を撤去することにより
河川の流下能力を回復し、流域内の治水安全度が向上する。

活用可能な制度等
特になし。

ハード対策

砂防堰堤の補修及び砂防堰堤の設置

防災施設の整備等

課題対応: G12-1 (R3-1)

○砂防堰堤の整備

【三重県】

【主な整備内容】

石谷の1県単通常砂防事業(伊賀市中村地内)



施工状況(R6.1月時点)



实施主体 担当部署

三重県
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

土石流による土砂災害から下流部に存在する人家、耕地、公共施設等を守ることを主たる目的として、砂防堰堤、床固等の砂防設備の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、土石流対策を進めていく。

取組による効果

砂防堰堤等を整備することにより、人家、耕地及び道路に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等
特になし。

○急傾斜地崩壊対策施設の整備

課題対応: G12-2 (R3-2)

【三重県】

【主な整備内容】

奥馬野地区急傾斜地崩壊対策事業(伊賀市奥馬野地内)



保全対象: 避難所(ライトピアおおやまだ)

実施主体
担当部署三重県
伊賀建設事務所R5年度
進捗状況: ○

取組概要

急傾斜地崩壊危険区域内の自然がけに対し、擁壁工、排水工及び法面工等の急傾斜地崩壊防止施設の整備を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難所や要配慮者利用施設の安全確保を優先して実施する。

取組による効果

擁壁工等を整備することにより、自力避難が困難な方々に対する土砂災害の被害を軽減させる。

活用可能な制度等

特になし。

○間伐等の森林整備

課題対応: G5-2 (R5-6)

【三重県】

【主な整備内容】

○保安林総合改良事業



【施工前】



【施工後】

実施主体
担当部署三重県
伊賀農林事務所R5年度
進捗状況: ○

取組概要

・手入れ不足等により過密状態となった荒廃森林において、森林整備を実施することで、山林の機能を回復し、下方人家等の保全を図る。

取組内容の工夫点・課題・留意点

・間伐木を等高線上に並べることで、降雨等により土壌の表目流出を抑制している。

取組による効果

・森林整備を実施することで樹木の生長や下層植生の繁茂を促し、降雨等に伴う土壌流出を抑制する。

活用可能な制度等

特になし。

要配慮者利用施設における避難計画の策定及び避難訓練の促進

○ 対象施設への避難計画作成支援説明会・講習会の開催

課題対応: G7-5(R9-5), R9-10)

【三重県】



实施主体 担当部署

三重県県土整備部
施設災害対策課
防災砂防課

R5年度
進捗状況:○

取組概要

防災部局が社会福祉施設の管理者を対象に開催している説明会に参加し、水防法、土砂災害防止法に基づく避難確保計画及び訓練の重要性等を説明。また、市町担当者に対しても避難確保計画の説明を行うとともに、意見交換会を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

避難確保計画の作成や訓練の実施が進まない場合は、その要因に応じた助言等を実施していく。

取組による効果

施設管理者や市町担当者に避難確保計画の重要性を理解していただき、計画作成及び訓練実施の進捗を図る。

活用可能な制度等
特になし。

ソフト対策

降雨予測や避難情報の提供の強化、洪水予測や水位情報の提供の強化
(危機管理型水位計や量水標等の設置、河川監視用カメラの配置、浸水や停電の
恐れのある観測所において、浸水・停電対策を実施、ダム放流設備の耐水化)

○危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置』

課題対応: G8-6 (R9-7)

【三重県】



令和5年度の実施内容

○簡易型河川監視カメラの設置
(久米川、シャックリ川)

■河川状況をリアルタイムで提供



(写真:一級河川柘植川)

实施主体 担当部署

三重県県土整備部
河川課
伊賀建設事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

三重県の河川DX中期計画(2022~2026)に基づき、危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラを拡充し、リアルタイムの河川情報を提供する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

取組による効果

洪水時には、危機管理型水位計や簡易型河川監視カメラにより切迫感のある情報をリアルタイムで提供することにより、水防活動や住民の適切な避難行動を促す。

活用可能な制度等
特になし。

特になし。

■危機管理型水位計、簡易型河川監視カメラの設置状況(淀川水系)

	R4まで	R5	R6以降
危機管理型水位計	36箇所	—	—
簡易型河川監視カメラ	5箇所	2箇所	6箇所

- 『土砂災害警戒情報の発表』『土砂災害情報提供システムの更新、運用』
- 土砂災害警戒区域等の指定

課題対応: G13-2(R9-8)
G13-3(R6-5)

【三重県】

土砂災害警戒情報の発表



システム周知ポスター

現在地の危険度がわかります

三重県土砂災害情報提供システム 検索



三重県県土整備部
防災砂防課
Tel: 059-224-2697 Fax: 059-224-2684
E-Mail: bssabo@pref.mie.lg.jp

実施主体

三重県県土整備部
防災砂防課R5年度
進捗状況: ○

取組概要

三重県と津地方気象台は共同で、大雨で土砂災害発生危険性が高まった時に土砂災害警戒情報を発表。

地域住民の避難行動や市町による避難指示等の発令を適時・適切に行っていただけるよう、「三重県土砂災害情報提供システム」を運用。

取組内容の工夫点・課題・留意点

システムのアクセス数は低調であり、まずは、住民の土砂災害に対する関心を高めることが課題であることから、見た人がその場でシステムにアクセスできるよう、二次元コードを掲載したポスターを制作し、多量に配布。

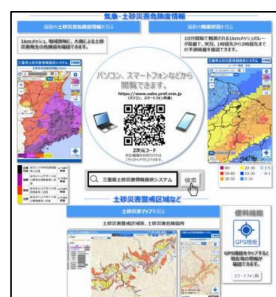
取組による効果

昨年度に比べ「土砂災害情報提供システム」のアクセス数は約1.4倍に増加。

活用可能な制度等

特になし。

土砂災害情報提供システムの更新、運用

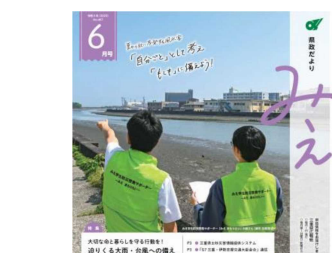


- 県広報誌による周知
- 県公報番組(ラジオ、テレビ)による周知

課題対応: G14-4 (R9-11)

【三重県】

県広報誌



県公報番組



「よしお兄さんのみえ」推し！
CBCテレビ
令和5年6月21日放送



実施主体

三重県県土整備部
防災砂防課R5年度
進捗状況: ○

取組概要

土砂災害や土砂災害警戒区域等に関する県民の意識を向上させるため、各種のメディアで広報活動を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

土砂災害防止月間に合わせて、わかりやすい広報を心掛けて実施。

取組による効果

土砂災害警戒区域等の避難につながる情報発信と土砂災害に関する危機意識の醸成が図れた。

活用可能な制度等

特になし。

○町並川地下バイパスの整備

課題対応:G1-1(R1-1)

【奈良県】

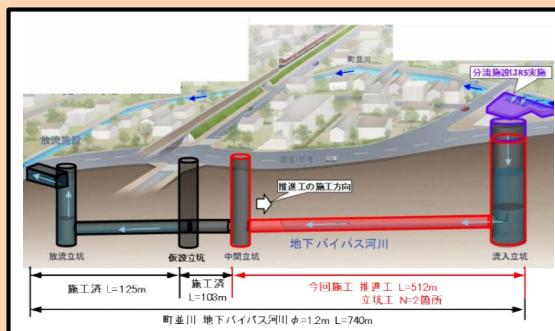
【主な整備内容】



- 工事名
：町並川 地下バイパス河川工事(推進工事)
- 工期：R3.10.8～R6.2.29
- 工事延長L=512m
推進工 Φ1200mm(L=496m)



町並川 (工事中)

実施主体
担当部署奈良県県土マネジメント
部 河川整備課R5年度
進捗状況:○
R5年度完了
予定

取組概要

住民の方々や学識経験者の意見を踏まえて作成した「淀川水系(奈良県域)河川整備計画」に基づいた改修工事の実施を行った。
町並川では河道拡幅が困難なため、地下バイパス河川の整備を行っている。

取組内容の工夫点・課題・留意点

河道拡幅が困難なため、地下バイパス河川の整備で流量を補っている点

取組による効果

供用に向け、現在工事を行っている。
供用開始が始まれば、整備計画に基づいた流量の確保が可能となる。

活用可能な制度等

特になし。

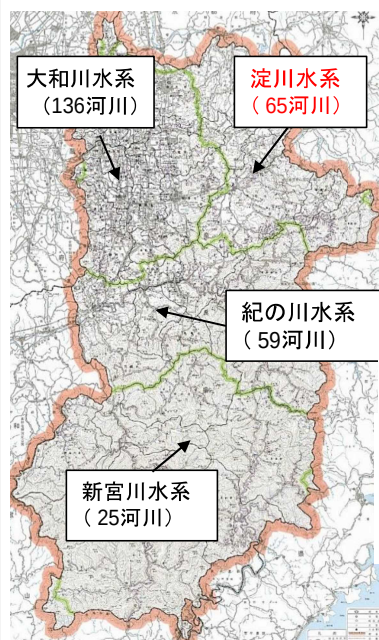
ソフト対策

想定最大外力を対象とした洪水浸水想定区域図及び家屋倒壊等氾濫想定区域図の策定・公表（水害リスク情報の空白域の解消）

○淀川水系内に流れる県管理中小河川の浸水想定区域図作成

課題対応:G7-1(R7-2)

【奈良県】



<洪水浸水想定区域図※(国、都道府県)>



<洪水浸水想定区域の作成・指定>

想定しうる最大規模の降雨による浸水が想定される区域、その水深及び浸水継続時間等について、河川管理者が指定

<洪水ハザードマップ(市区町村)>



<洪水ハザードマップの作成・周知>

市町村において、水害時の住民避難に活用するために、浸水想定区域や浸水深、避難場所・経路、地下街等、要配慮者施設等の情報を示した洪水ハザードマップの作成・周知を行う

実施主体
担当部署奈良県 県土マネジメント
部 河川整備課R5年度
進捗状況:し

取組概要

水害リスク情報の空白域の解消のため、県管理河川における中小河川の洪水浸水想定区域図を作成し公表を行った(R5.5公表)。

取組内容の工夫点・課題・留意点

ホームページ上で公表し、誰でも確認出来るようにしている。

取組による効果

洪水浸水想定区域図は市町村が作成する洪水ハザードマップの参考となるため、住民の方が洪水被害から避難するための情報となる。

活用可能な制度等

特になし。

①事業工期を遵守 ②川上ダムの適切な管理運用

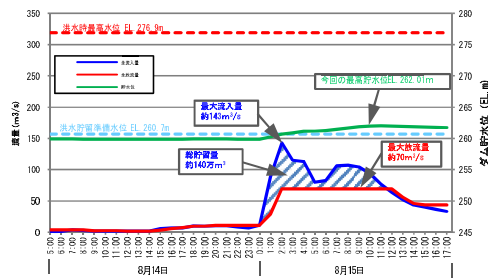
課題対応: G1-3 (R4-1)

【水資源機構】

【主な整備内容】



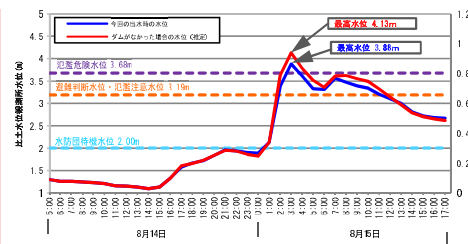
川上ダム全景写真



台風7号出水による川上ダムハイドロ図



川上ダム洪水調節図



台風7号出水による比土地点水位

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:
レ

取組概要

川上ダム建設事業の事業工期である令和5年度までに事業を完了させるとともに、管理運用開始後は、目的の一つである洪水調節を適切に実施し、洪水被害の軽減に努める。

取組内容の工夫点・課題・留意点

下流の河川整備が未完成的な箇所では洪水被害が発生する可能性があることから、中小洪水を対象に河川管理者等の指示により洪水ピーク前に放流量を絞る特別防災操作を実施する。

取組による効果

川上ダム下流の比土地点において、河川水位の低減を図るとともに、下流沿川の洪水被害の軽減に効果を発現する。

活用可能な制度等
特になし。

ダム等の洪水調節機能の向上・確保

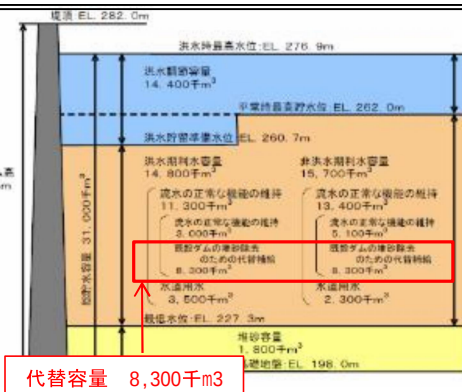
（ダム管理区間における浚渫等によって発生する建設発生土の処理・活用方法、対策後の継続的な維持管理のあり方について検討、事前放流の実施、ダム再生の検討・ダム湖の堆砂除去）

○既設ダムの堆砂除去

課題対応: G1-4(R4-2)

【水資源機構】

【主な整備内容】



川上ダム貯水池容量配分図



高山ダム堆砂除去工事の状況

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

木津川上流ダム群（室生ダムを除く）の土砂管理について、川上ダムの代替容量を利用し、木津川上流ダム群でローテーションを組み、各ダムの貯水位を低下させ堆積土砂の陸上掘削を行うことにより、ライフサイクルコストを低減する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

堆砂除去により発生した砂は、ダム下流への土砂還元や地域貢献として公共事業への転用や民間企業との連携により有効活用を図ることとなっているが、それらを実現するための検討、調整。

取組による効果

- 堆砂除去による貯水池内のリフレッシュ（有効容量のアップ）。
- 陸上掘削によるライフサイクルコストの低減。

活用可能な制度等
特になし。

ハード対策

ダム等の洪水調節機能の向上・確保

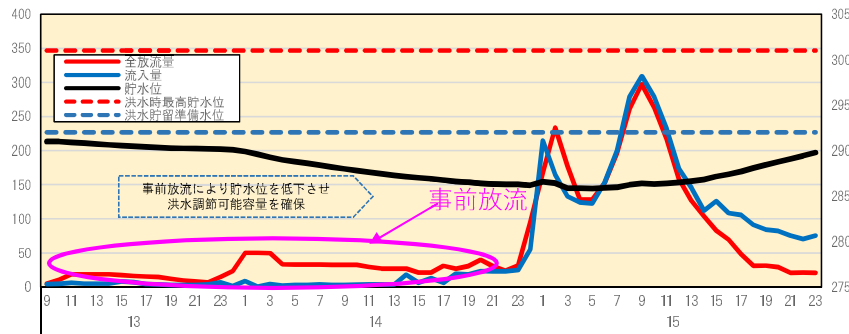
(ダム管理区間における浚渫等によって発生する建設発生土の処理・活用方法、対策後の継続的な維持管理のあり方について検討、事前放流の実施、ダム再生の検討・ダム湖の堆砂除去)

①事前放流実施要領の策定 ②適切な事前放流の実施

課題対応: G1-4(R4-4)

【水資源機構】

【主な整備内容】



台風7号(R5.8)における高山ダムのハイドロ図

台風7号(R5.8)における各ダムの事前放流量等

ダム名	事前放流量	ダムの水位低下量	備考
高山ダム	1,034千m3	3.05m	
青蓮寺ダム	1,804千m3	2.53m	
室生ダム	13千m3	0.02m	
布目ダム	1,024千m3	1.57m	
比奈知ダム	2,489千m3	4.68m	

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

既設5ダムにおいては、令和3年度までに治水協定に基づく事前放流実施要領を策定済み。川上ダムも試験湛水終了後に策定予定。また、既設5ダムにおいては、実施要領に従い適切に事前放流を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

確実な事前放流を実施するためには、降雨予測の精度向上を図る必要がある。

取組による効果

事前放流により出水前に貯水位を低下させることが可能であり、治水機能の向上が図られる。

活用可能な制度等

特になし。

ハード対策

ダム等の洪水調節機能の向上・確保

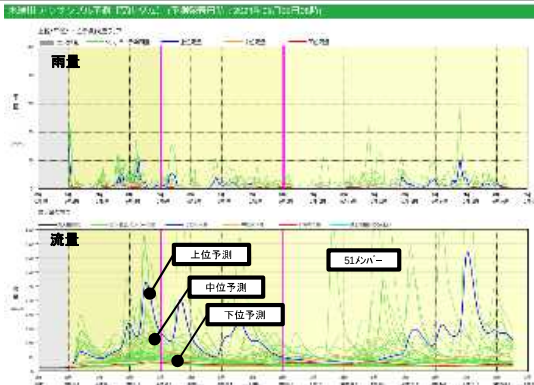
(ダム管理区間における浚渫等によって発生する建設発生土の処理・活用方法、対策後の継続的な維持管理のあり方について検討、事前放流の実施、ダム再生の検討・ダム湖の堆砂除去)

○予測精度の向上

課題対応: G1-4(R4-5)

【水資源機構】

【主な整備内容】



事前放流の基準降雨量以上の予測情報		ゲート放流、洪水調節、緊急放流の予測情報	
項目	予測結果	項目	予測結果
事前放流の基準降雨量以上の予測情報	予測結果	ゲート放流、洪水調節、緊急放流の予測情報	予測結果
ゲート放流、洪水調節、緊急放流の予測情報	予測結果	ゲート放流、洪水調節、緊急放流の予測情報	予測結果

アンサンブル予測の表示画面

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

事前放流をより効果的に行うため、長時間先降雨予測であるアンサンブル技術を導入し、事前放流の高度化（早期判断、放流量の合理化）を目指している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

事前放流の基準降雨量の超過や洪水調節に至る雨の経験が不足しており、傾向にばらつきがあるため、引き続き事例収集に努める必要がある。

取組による効果

- ダム下流河川利用者の安全確保（少量のダム放流での対応が可能になる）
- 貯留水の有効活用（発電放流設備からの放流）

活用可能な制度等

特になし。

ハード対策

ダム等の洪水調節機能の向上・確保
(ダム管理区間における浚渫等によって発生する建設発生土の処理・活用方法、対策後の継続的な維持管理のあり方について検討、事前放流の実施、ダム再生の検討・ダム湖の堆砂除去)

○新規のストックヤード整備

課題対応: G1-4 (R1-4, R1-6)

【水資源機構】

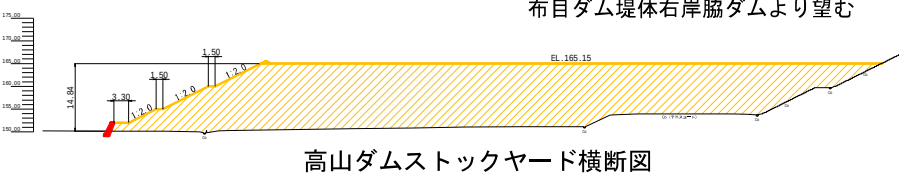
【主な整備内容】



高山ダムストックヤード平面イメージ図



布目ダム堤体右岸脇ダムより望む



実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:
★、○

取組概要

高山ダム右岸の機構用地を当面のストックヤードとして整備を進めた。
また、堆砂除去計画を踏まえ、ダム近傍に新たなストックヤードを確保するため、調査を継続していく。

取組内容の工夫点・課題・留意点

R4-2の課題にあるような有効利用に向け検討、調整を積極的に行うとともに、新規のストックヤードの確保に向け、ダム周辺関係自治体などとの情報共有を図っていく。

取組による効果

当面のストックヤードは確保できたことから、継続した堆砂除去を実施する。
高山ダム右岸 約14万m3
布目ダム右岸 約15万m3

活用可能な制度等

特になし。

ソフト対策

ダムの防災操作や放流連絡体制の周知(地域住民へ避難の必要性やダム警報局スピーカーの周知)

○ダムの防災操作や放流連絡体制の周知

課題対応: G7-7 (R9-24)

【水資源機構】



洪水対応演習の様子(R5.5)



住民参加型訓練の様子(R5.5)



布目ダム放流連絡会の様子(R5.5)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況: ○

取組概要

洪水対応演習および住民参加型訓練を実施し、避難の必要性や警報局スピーカーの周知を行った。防災連絡会ではダム防災操作の説明、放流連絡体制の周知を行った。

取組内容の工夫点・課題・留意点

毎年繰り返し周知をすることで、ダム操作に対するより一層の理解を得ることができる。

取組による効果

事前にきちんと説明、周知を行うことで、洪水時や緊急時などもスムーズなやりとりをすることができる。

活用可能な制度等

特になし。

○関係機関が連携した情報伝達訓練の実施

課題対応: G7-8, R9-25

【水資源機構】



名張市防災訓練の様子(R5.11)



名張市防災訓練の様子(R5.11)

実施主体
担当部署

木津川ダム総合管理所

R5年度
進捗状況:△

取組概要

名張市が主催する防災訓練に参加。

取組内容の工夫点・課題・留意点

関係自治体が主催する訓練には積極的に参加し、関係自治体との連携の強化を図る。

取組による効果

市内の浸水被害の状況及び対策について、情報共有と連携を図ることができる。

活用可能な制度等

特になし。

住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信を実施

○線状降水帯の発生を知らせる「顕著な大雨に関する気象情報」を
予測技術を活用し、最大30分程度前倒しで発表する

課題対応: G8-1(R8-5)

【津地方気象台 奈良地方気象台】

情報の改善

・線状降水帯による大雨の可能性をお伝え

令和3(2021)年
線状降水帯の発生
をお知らせする情報
(6/17提供開始)

「明るいうちから早めの避難」・・・段階的に対象地域を狭めていく

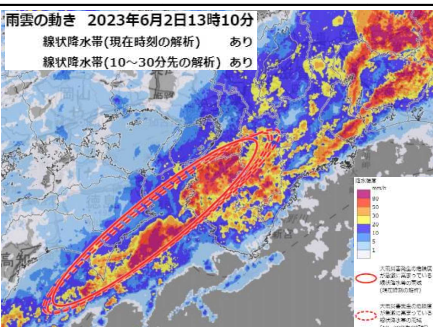
令和4(2022)年～
広域で半日前
から予測令和6(2024)年～
県単位で半日前
から予測令和11(2029)年～
市町村単位で危険度の把握
が可能な危険度分布形式の
情報を半日前から提供線状降水帯の雨域を
楕円で表示

今回の新たな運用

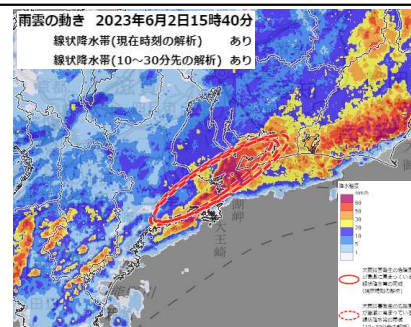
令和5(2023)年～
最大30分程度早く
発表令和8(2026)年～
2～3時間前を目標
に発表・線状降水帯の
雨域を表示

「迫りくる危険から直ちに避難」・・・段階的に予測時間を延ばしていく

※具体的な情報発信のあり方や避難計画等への活用方法について、情報の精度を踏まえつつ有識者等の意見を踏まえ検討



顕著な大雨に関する奈良県気象情報 第1号
令和5年6月2日13時10分 奈良地方気象台発表
(見出し) 奈良県南部では、線状降水帯による非常に激しい
雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害
や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。



顕著な大雨に関する三重県気象情報 第1号
令和5年6月2日15時40分 津地方気象台発表
(見出し) 三重県南部では、線状降水帯による非常に激しい
雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害
や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

実施主体
担当部署

気象庁

R5年度
進捗状況:○
【実施済】継続

取組概要

線状降水帯に関する情報の改善。

取組内容の工夫点・課題・留意点

線状降水帯についての情報は、今後も段階的に、対象地域を狭めていくこと、予測時間を延ばしていくことを予定している。

取組による効果

「顕著な大雨に関する気象情報」を発表することにより、関係機関に線状降水帯への危機感を共有することができる。

活用可能な制度等

特になし。

河川整備計画に基づく河川改修の実施

①築堤・護岸工 ②河道掘削 ③河道拡幅 ④橋梁架替

○名張川 名張かわまちづくり一体型浸水対策事業(Ⅰ期)

宇陀川:名張市黒田地区/引堤河川改修(約290m)

課題対応:G1-1 (R1-1)

【木津川上流河川事務所】

【主な整備内容】



※引堤計画図とかわまち計画図は、現時点の計画であり、今後詳細設計等を実施することにより内容を変更する場合があります。

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

名張市街地の浸水被害の軽減を図るため、「名張かわまちづくり」と連携して引堤及び河道掘削を推進し、安全度の向上を図る。令和5年度は名張大橋、黒田橋撤去工、黒田橋台工、築堤護岸工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今後、気候変動による外力の増大とそれ伴う水災害の激甚化や発生頻度の増加などの事象を想定し、対策を進めていく。

取組による効果

河川整備計画で目標としている昭和28年台風13号洪水の降水量を1.1倍とした洪水に対して、名張川・宇陀川合流点付近の水位を約1m低下させ、堤防からの越水を回避し、名張市街地の浸水被害を軽減する。

活用可能な制度等

特になし。

河川整備計画に基づく河川改修の実施

①河道掘削 ②河道拡幅 ③橋梁架替

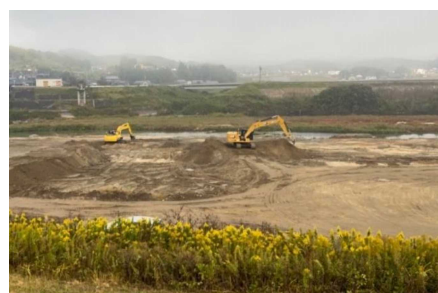
○上野遊水地事業

服部川:三田地区 / 河道掘削(約30,000m³)、引堤護岸工 (約150m)

課題対応:G1-1 (R1-1)

【木津川上流河川事務所】

【主な整備内容】



河道掘削



伊賀上野端:仮橋下部工

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

上野遊水地、川上ダムの運用開始を受け、伊賀地域のさらなる治水安定度向上のため河道掘削を実施。令和5年度は服部川三田地区で河道掘削、引堤護岸工の施工を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

治水上の課題(内水への影響、上下流バランス、超過洪水への対応等)や維持管理、土地利用、自然環境への影響に留意が必要である。

取組による効果

河道掘削の計画的に実施することで段階的に治水安全度を向上させて浸水被害を軽減させることができる。

活用可能な制度等

特になし。

河川管理施設、砂防施設の長寿命化

排水ポンプオーバーホール等

課題対応:G1-5 (R1-3)

○河川工作物関連応急対策事業 樋門ゲートの無動力化

【木津川上流河川事務所】

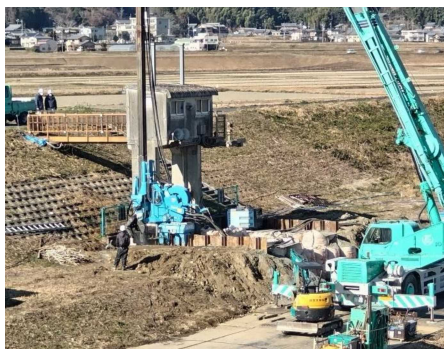
【主な整備内容】

【目的】

樋門樋管の操作が不要な樋門等の導入を推進するため、「樋門樋管ゲート形式検討の手引き」が策定され、既設の樋門樋管について無動力式ゲートを導入して「無動力化」を図り、問題を解決して行くことである。



令和6年3月完成予定



木津川 朝屋排水樋門(工事中)



木津川 木興排水樋門(工事中)

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

集中豪雨発生頻度の増加による操作頻度の増加、操作員の高齢化や担い手不足など、操作員の確保が難しくなっており樋門樋管ゲートの無動力化を実施。

取組内容の工夫点・課題・留意点

樋門樋管の運用において、少子高齢化の影響により「操作員の確保」が困難になっていること、洪水の水位上昇時に操作員が避難した場合、「無人状態」になることが課題である。

取組による効果

従来の人力によるゲート操作が不要なフラップ式ゲートにすることにより担い手不足の解消につながる効果がある。

活用可能な制度等

特になし。

ソフト対策

住民の避難行動を促し、迅速な水防活動を支援するため、スマートフォンを活用したリアルタイム情報の提供やプッシュ型情報の発信を実施

○木津川上流河川事務所X(旧Twitter)による出水情報等の配信

課題対応:G8-1 (R8-5)

【木津川上流河川事務所】

【主な実施内容】

【目的】

国土交通省では、洪水時に住民の主体的な避難を促進するため、洪水情報のプッシュ型配信(携帯電話事業者が提供する「緊急速報メール」のサービスを活用した周知)に取り組んでいます。
※「プッシュ型配信」とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みです。



国土交通省 木津川上流河川事務所 @mlit_kizujyo · 8月15日
【警戒レベル2相当情報【洪水】】名張川の名張水位観測所(名張市南町)15日7時50分頃に、氾濫注意水位(6m)に到達しました。市町村長からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。(8月15日7時50分頃の「名張大橋」カメラの静止画像です)



＜記載内容＞

2023年8月15日午前8:01投稿
【警戒レベル2相当情報【洪水】】名張川の名張水位観測所(名張市南町)15日7時50分頃に、氾濫注意水位(6m)に到達しました。市町村長からの避難情報に十分注意するとともに、適切な防災行動をとってください。(8月15日7時50分頃の「名張大橋」カメラの静止画像です)

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○
【実施済】継続

取組概要

令和5年度は、SNSと「X」(旧twitter)により配信することで、利用者に向け洪水情報配信に向けたプッシュ型配信を実施した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

工夫点としては受信者が要求しなくても河川管理者から、現在の河川情報について「X」(旧twitter)を通じて把握できる取組を行った。

取組による効果

「X」(旧twitter)から配信することで、情報公開することが出来た。

活用可能な制度等

特になし。

1. 小中学校における水災害教育を実施 2. ハザードマップの策定、周知

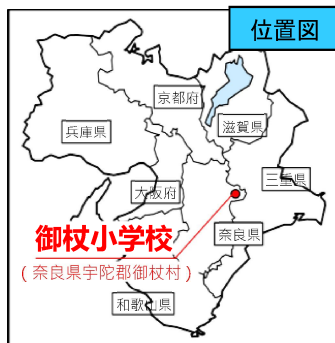
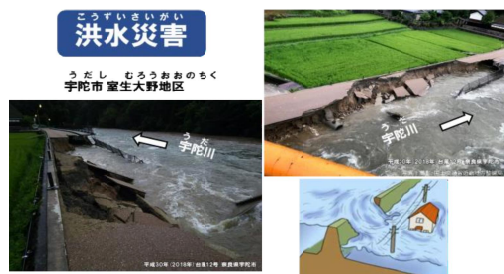
①小中学校への出前講座の実施 ②ハザードマップの防災教育への活用

課題対応：G7-4(R8-1),G7-2(R9-14)

○御杖村の小学校で出前講座を実施

【木津川上流河川事務所、紀伊山系砂防事務所】

【河川災害説明資料】

実施主体
担当部署木津川上流河川事務所
紀伊山系砂防事務所R5年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、治水・防災・環境をテーマに、木津川上流河川事務所管内の小学校で出前講座を実施している。令和5年度は御杖小学校で、治水・防災について出前講座を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

子供たちが集中して学習できるようテレビを活用し、子供たちが関心のある自分の家の周りの危険に対する対処法について説明を行った。

取組による効果

河川災害及び土砂災害の種類やメカニズム、ハザードマップでの避難所の確認などを通じて、小学校周辺が洪水被害や土砂災害が発生しやすいことに気付くなど、自分の命は自分で守ることの大切さを理解してもらった。

活用可能な制度等

特になし。

【土砂災害説明資料】

地域のハザードマップを確認しよう



小中学校における水災害教育を実施

①小中学校への出前講座の実施

②環境学習関係

課題対応：G7-4 (R8-1)

○宇陀市の大宇陀小学校で出前講座を実施

【木津川上流河川事務所】

- 内 容：①川の危険性
②川の治水・減災対策
③健全な水循環の重要性について
④簡易水質検査（パックテスト）

【川の危険性に関する説明資料】



宇陀市立大宇陀小学校

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、治水・防災・環境をテーマに、木津川上流河川事務所管内の小学校で出前講座を実施している。令和5年度は大宇陀小学校で環境をテーマに出前講座を開催した。

取組内容の工夫点・課題・留意点

4年生の児童を対象に興味を持ってもらうよう、クイズ形式のスライドで説明を行ったり、簡易水質検査（パックテスト）を実際に体験していただき、川の水をきれいにすることの大切さを理解するよう留意した。

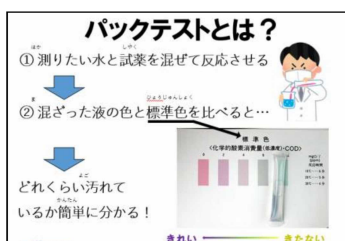
取組による効果

洪水の危険性及び治水対策や健全な水循環の重要性について、楽しみながら理解してもらった。

活用可能な制度等

特になし。

【健全な水循環の重要性に関する説明資料】



○名張市マイ・タイムライン講習会を開催

課題対応: G7-9 (R9-15)

【木津川上流河川事務所、名張市】

【主な実施内容】

開催予定日: 令和6年2月10日(土)
 開催場所: 名張市防災センター2階 防災研修室
 内容: 名張市マイ・タイムライン講習会
 対象者: 名張市住民(自主防災組織の役員、防災士等)等
 講師: 澤キャスター、土井キャスター
 メニュー: ①対談「適切な非難の重要性と水害に強いまちづくりについて」
 ②講演「近年の気象災害と情報の活用」
 ③マイ・タイムライン作成講習



澤キャスターによるマイ・タイムライン講習



名張市長による閉会の挨拶
 ・マイ・タイムラインを活用していただきたい
 ・避難指示が出たら確実に避難していただきたい

実施主体
担当部署

・木津川上流河川事務所
 ・名張市

R5年度
進捗状況:○

取組概要

流域治水の意識、重要性に対する流域関係者の理解と協力を求める働きかけを目的に自主防災組織や防災士等を対象とした「名張市マイ・タイムライン講習会」を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

テレビで活躍されているお天気キャスターを講師に招き、気象予報士、防災士の両面の視点から気象に関する講演、マイ・タイムライン作成講習をしていただいた。対談では、名張市長に適切な避難の重要性について語っていただいた。

取組による効果

自主防災組織の役員、防災士等に参加いただき、マイ・タイムライン作成の有効性を理解していただき、家族・近所・友人にもすすめていただく働きかけができた。

活用可能な制度等

特になし。

ソフト対策

1. 関係機関が連携した情報伝達訓練を実施
2. 毎年、関係機関が連携した実働水防訓練を実施

①関係機関が連携した情報伝達訓練の実施 ②水防訓練の実施

○関係機関と連携した洪水対応演習を実施

課題対応: G7-8 (R9-25), G9-4 (R9-17)

【木津川上流河川事務所】

【主な実施内容】

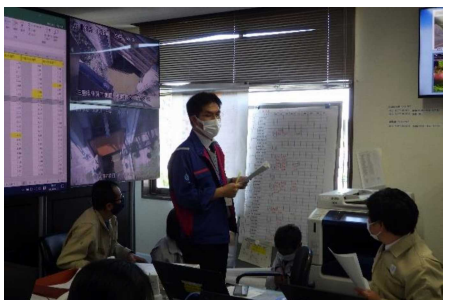
実施日: 令和5年5月12日(金)

演習の目的

本演習は木津川上流河川事務所風水害対策部運営計画、水防マネジメント計画書、流域タイムラインに基づき出水時における洪水予測の実施、水防関係機関等への水防警報・洪水予報等の情報伝達、ダム・水門など河川管理施設の操作ルール・操作状況の確認及び情報伝達、河川工事の現場関係者への情報伝達及び、被害の軽減を図る措置としての対策工法の検討等、実践的な演習を行うことにより、洪水時に適切な対応ができるよう、防災体制に万全を期することを目的としている。



Web会議を活用し訓練



演習状況

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

毎年、木津川上流河川事務所風水害対策部運営計画及び木津川上流域水防マネジメント計画書、流域タイムラインに基づき出水時における実践的な演習を実施している。

取組内容の工夫点・課題・留意点

出水時における洪水予測の実施、水防関係機関等への水防警報・洪水予報等の情報伝達、河川管理施設の操作ルール・操作状況の確認及び情報伝達、河川工事の現場関係者への情報伝達及び応急対策工法の検討等、実践的な演習を行い、課題を抽出している。

取組による効果

令和5年度洪水対応演習にて、情報伝達手段や伝達タイミングの確認を行うことで、出水時に流域タイムラインに則り、遅延なく情報伝達を行うことができた。

活用可能な制度等

特になし。

○毎年、排水計画に基づく国土交通省と伊賀市の合同による災害対策用機械操作訓練を実施

【木津川上流河川事務所、伊賀市】

課題対応：G10-2 (R10-2)

【主な実施内容】

日時：令和5年6月20日（火）14:00～15:30
 場所：小田排水機場（三重県伊賀市小田町 服部川左岸）
 参加者：国交省17名、伊賀市11名（操作委託者含む）
 報道関係：読売新聞、朝日新聞、中日新聞
 伊賀上野ケーブルテレビ（6/22～6/23放送）

位置図



Ku-SATの映像伝達訓練



排水機場内の監視カメラの映像を、本局から衛星を経由し、訓練会場に映像を配信しました。

実施主体
担当部署

木津川上流河川事務所

R5年度
進捗状況:○

取組概要

国土交通省と伊賀市の合同による災害対策用機械操作訓練を小田排水機場で実施した。この訓練は、国土交通省と伊賀市の連携を深めることを目的に平成26年から行っており、今回で10回目の実施となった。

取組内容の工夫点・課題・留意点

今年度は、排水ポンプ車、照明車、災害対策本部車の訓練に加え、Ku-SATの映像伝達訓練も行った。

取組による効果

本訓練を通じて災害対策用機械の操作方法等について再確認することにより、災害発生時に迅速な対応ができる体制を確認することができた。

活用可能な制度等

特になし。

ハード対策

砂防堰堤の補修及び砂防堰堤の設置

木津川水系に流入する土砂流出抑制による土砂・洪水氾濫対策

課題対応：G12-1 (R3-1)

○砂防堰堤、山腹工、床固工の整備

【紀伊山系砂防事務所】

【完成した砂防施設例】



【完成した砂防施設例】

実施主体
担当部署紀伊山系砂防事務所
工務課R5年度
進捗状況:○

取組概要

木津川水系における直轄砂防事業では、昭和34年9月の伊勢湾台風をはじめ、台風や集中豪雨等により山腹崩壊や土石流災害が発生しており、継続して砂防施設を整備している。さらに、近年、全国で大きな被害をもたらしている土砂・洪水氾濫へ対応するための、施設整備を進めるほか、施設の適切な状況把握に基づく補修を推進する。

取組内容の工夫点・課題・留意点

土石流対策の砂防堰堤の整備においては、流木捕捉工を設置。

取組による効果

木津川水系における土砂流出に起因する土砂・洪水氾濫被害および土石流・流木被害から国民の生命・財産および重要交通網等の社会基盤を保全を図る。

○御杖村の小学校で出前講座を実施

課題対応:G7-4 (R8-1)

【紀伊山系砂防事務所】

【実施状況】

<開催日>

令和5年5月25日(木) 10:40~12:20

<開催場所>

御杖小学校 多目的ホール3階

(奈良県宇陀郡御杖村大字菅野2470)

<参加者>

御杖小学校4~6年生 計11名



御杖小学校（御杖小学校HPより）



河川災害についての説明は『木津川上流河川事務所』が担当



土砂災害についての説明は『紀伊山系砂防事務所』が担当

御杖小学校
(奈良県宇陀郡御杖村)実施主体
担当部署紀伊山系砂防事務所
調査課 木津川上流河
川事務所 流域治水課R5年度
進捗状況:○

取組概要

木津川の上流で事業を実施している木津川上流河川事務所と合同で、御杖小学校の生徒を対象に、土砂災害及び河川災害についての出前講座を開催。

取組内容の工夫点・課題・留意点

ハザードマップを使って、避難所と自宅の位置、警戒区域の確認や実際の調査に使用しているドローンも紹介し、子供達ができるだけ関心を持てるように説明を行った。

取組による効果

自治体と連携し、小学校等で防災に関する出前講座を行うことで、土砂災害対策を自分事化し、防災意識の向上につなげる。